

平成20年10月

[配布先：全組合員]

市場情報

<地区市場動向>

東北

めっきり秋の気配

お彼岸も過ぎてめっきり秋の気配を感じてきましたが、東北地方では紅葉の季節を迎えつつあります。特に奥入瀬溪谷、鳴子峡が美しさでは有名です。

東北地方は先月同様で、大型プロジェクト中心で動いています。

母材のタイト状況も相変わらず厳しい状況で、価格も更にアップし、スクラップ価格も乱高下しており、高価格時は歩留損分が一部補填できていましたが、低価格になると母材が高価格だけに歩留により大きく採算に影響してきます。母材価格上昇分の転嫁、適正加工賃確保、低歩留切板の歩損補填要望等と価格交渉において、これからの正念場です。

経済が不透明の中、これからの動向が気に掛かります。

(J F E 鋼材・湊和志)

東 海

あつという間に

先行き不透明な時代とよく言われていますが、今年の急激な変化には全く驚かされます。資源高による原油、鉄鉱石、鋼屑価格等の急上昇に始まり、北京オリンピックが終わった途端の鋼屑価格が一月で半値近くまで急落した事、又世界有数の金融機関があつという間に破綻した事、等のスピードは常識では考えられず、とても一企業の対応力を超えているとしか思えません。この時代の流れに乗り遅れまいと無理して振り回されるより諦めてじっと動かない様自分に言い聞かせているこの頃です。

さて、東海地区においては、自動車関連の落込み、世界経済の失速、円高による輸出の落込みで工作機向け切板需要は底這ったままで回復の兆しも無い中、母材価格は確実に上がり、切板価格はここ2ヶ月強含みの中、ほとんど動いていない様に思われる。目先の仕事の少なさから、どこも先頭を切って値上げしたくない為だが、入荷減少により当地区の在庫は確実に減り、タイト感も徐々にでてきています。東鉄の一般鋼材や薄板の値下げで当然厚板も下がると思っているユーザーがまだまだ多いと思われませんが、自信を持って厚板は違う事をアナウンスしつづける必要があります。今後のメーカー供給動向を考えると少しでも仕事が出れば、切板相場も急上昇してもおかしくないと思っている毎日です。

(株) 玉造名古屋・小林